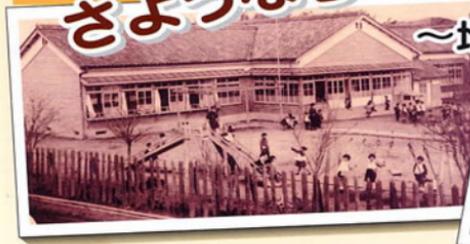


## さようなら そして ありがとう ～地域に愛され続けた幼稚園



創立76周年を迎えている「しろはと幼稚園」が今年度をもって閉園となります。卒園生は6,000名を数え、中には親子三代という家族も…。そこで、共に卒園生の親である記者2名が取材に伺ってきました。

中森園長は「本当に長い間、お世話になりました。紆余曲折を経てここまでまいりましたが、当市に公立幼稚園を残すためにも、また積年の思いであったしろはと幼稚園での3歳児保育を実現するためにも、このような形で前へ進むことになりました」と目を潤ませながら話されました。

さらに園長は、「幼稚園教育とは3・4・5歳の大切な時期を『子どもとの関わりを大切に』『子どもの成長を親も感じていく』ものであり、園側としても『子育てを楽しもう』『一緒に親も成長していこう』をモットーに様々な行事や活動に取り組んでまいりました。中でも『やんちゃっこ』といって、お父様方はじめ家族の方々にも参加いただき、子供を遊ばせるだけではなく、子供と一緒に親が本気で遊ぶ、楽しむという活動を行ってまいりました。だからこそ、今回のふたば幼稚園との統廃合は『発展的統合』と前向きに捉え、これからの幼稚園教育を担っていくよう努力する所存です」と力強く語られました。

### ●新名称は「桃青の丘幼稚園」

4・5歳児はそれぞれ30名／組が3組、3歳児は20名／組が2組という編制で、総勢220名になる予定です。故に3歳児は残念ながら抽選となる見込み。今後は両幼稚園の教育内容のすり合わせや、来年度年長となる園児たちの交流会、そして引越

し等々課題が山積していますが、2月末には両幼稚園で閉園式も予定されています。

「本当に地域に愛され、育てていただいた幼稚園なんです」とは園長の弁。

取材を終え、薄暗い園庭を眺めながら園長は「あの砂場の藤棚はご近所の方のご好意により苗を分けていただいた作り上げたんです」とが「裏庭のびわの木は、以前在籍していた職員が、昼食のデザートに持参したびわの種を植えたらどんどん成長して、今ではびわの季節に園児のおやつになるくらいまで大きくなったのよ～」とが「昔はカメが暮らす池があってね、大雨のときに逃げたしたものの甲羅に（しろはと）と記入してあったものだから発見した方が居て下さったり」等々思い出話はつきません。

最後に「地域の皆様、長い間しろはと幼稚園を温かく見守っていただき、ほんとうにありがとうございました。東部地域からは今より遠くなりますが、また新たな歴史の1ページを築いていきたいと思っています」と熱く語る園長の眼差しには「桃青の丘幼稚園」への希望が輝いているかのようでした。取材：西出・萩中





## わが町 緑ヶ丘本町

～探訪シリーズ 2～



私達の住む緑ヶ丘本町は、歴史が浅く、古くは旧市街地より見て広い範囲で緑ヶ丘という地名で呼ばれていた所です。その後、緑ヶ丘は住宅が建ち、それに伴い人口も増え、次第に都市化していきました。

そこで昭和42年に緑ヶ丘5町が誕生し、私達の住む町は緑ヶ丘本町として出発いたしました。地形的には長方形に形成されており、わかりやすい町となっています。近年空き地が多い為、宅地造成が増え、人口の増加が期待される所です。

緑ヶ丘本町は、緑ヶ丘全体のほぼ中央にあり、町内に東部公民館、緑ヶ丘中学校、みどり第二保育園、税務署、労働基準監督署等があります。

その中で、私達緑ヶ丘本町自治会は、歴代の役員の皆様方により、安全で安心して暮らせることを基本として、住民の皆様との親睦と福祉の向上に尽力いただきました。引き続き現在も色々行事を実施いたしております。

又、町内には運動遊園(約千坪)があり、町民の憩いの場所として、地権者のご理解をえて活用しております。平素は有志の皆さんにより、土手面の花の手入れをしていただいております。春には、運動遊園の周りの桜は見事であり、多くの人々が毎年お花見を楽しみにしています。自治会では防災訓練、交通安全の集いを実施しています。町内の皆さんには年2回清掃をお願いしております。これもお互いのコミュニケーションを図る良い機会と考えています。

緑ヶ丘本町自治会として、住民の皆様と新しくこられる方々との融和を図り、健康増進と福祉の高揚に努めたいと思います。

緑ヶ丘本町自治会長 前澤 信男



みどり第二保育園の園児からのプレゼント

にぎ い が やま と かいどう  
賑わいの伊賀・大和街道

あか ば しょう みち  
「灯りの芭蕉路Ⅲ」

心の底に響く白鳳太鼓で始った〈伊賀・大和街道「灯りの芭蕉路Ⅲ」〉は、10月10日の夕方から上野天神祭りまで、新町から車坂町にかけての通り筋で開催されました。

55基の三角行灯には、しほはと幼稚園児の絵や芭蕉祭献詠特選句が入られ、心の和む灯りを演出し、中心となる二つの街道の追分（分岐）の地、農人町を中心に、近隣の児童福祉会による「わがまち一人一句展」を掲示し、芭蕉ゆかりの地にふさわしい取り組みとなりました。

今回は、大和街道と伊賀街道を歩いてもらおうと、7箇所のお店を巡るスタンプラリーとセットした抽選会も企画して約200名の参加があり、沿道商店街の方々からは「やっばし、人が歩き、子どもの声が聞こえるのは工工な」、抽選会では、組立家具を当てた児童が「お父ちゃんに組み立ててもらおう!」と大喜びの一幕。

「ふれあい緑日」には、豆腐ドーナツや綿菓子に長い行列ができ、参加したしほはと幼稚園の先生も「去年よりも一段と盛況で…」と言うほどの人出で、商店会や児童福祉会のメンバーなど対応におおわらわでした。

さらに、同志社大学まちづくり研究会の協賛による「まちあかり、駅カフェ」では、お抹茶をいただきながら赤とんぼなど馴染みの曲の数々を奏でるフルートとサクソフォンに、癒しのひと時をすこす人たちも。しばし耳を傾けていた小1の女の子は「ええ音やね、笛ーじ♡」と一緒に来ていたおじいちゃんに話しかけていました。

このイベントの実行委員会には、東部自治協・産業振興まちづくり部会も加わり、心一つに取り組みました。取材：杉本

伊賀・大和街道  
灯りの芭蕉



▲「まちあかり、駅カフェ」



▲にぎわった  
ふれあい緑日▶



# あそこって 何なの??

## 伊賀の中の“アフリカ”

「NPO 日本アフリカ音楽交流会」と大きく看板を掲げた建物が緑ヶ丘中町にあります。「KENYA HOUSE」というレストランを経営する傍ら、NPO活動を続ける榎木(はりき)きょうこさんと、ご主人でケニア人のウィリアムさんにお話を伺いました。

発足のきっかけは、きょうこさんが2年間ケニアに滞在したことから。

「日本人はアフリカ人を知らなさすぎてると思って。でも、それが悪いとかじゃなくて、接するきっかけが少ないでしょ？ 音楽を通じて、彼らの文化や「心の強さ」を知ってみたいなあ…と」

まずはウィリアムさんが日本に来て驚いたのは、数々の質問の内容でした。

「靴、はくんや〜」「携帯電話使えるの?」「服、着んねんなあ〜」「ライオンに食われへんの?」……「ケニア人って、槍持って、裸で腰巻きみたいなんして、動物追いかけてるっていう“原住民の感覚”だった」。一部の人のその言葉の裏に、昔の奴隷＝人種差別を感じる事もあったそうです。黒人は暴力的で、知性がなく、人間性が劣っているというイメージが彼の心を傷つけた事も…。もちろん悪意が無いのは分かっていても、とても辛い事だったようです。まるで一部の諸外国人が、未だ日本人は刀を振りかざし人を切る侍のイメージのままと思い込んでいるのと一緒です。

ほとんどのケニア人は仕事をもち、家を持ち、車に乗り、日本人と変わらない生活をおくっています。ただ国全体の公の設備が整っておらず、下水・上水・電気等に問題が度々あり貧富の差も激しいです。人口密度が低いため人出不足によるこれらことはやむをえないようです。「100年間高度成長していない国」そう言っていました。

ただウィリアムさんに会って「ケニアとケニア人であるという誇り」の高さが印象的でした。

古き良き時代の日本のように、温かい人付き合い、近所付き合いは深く「ちょっと醤油足らんから貸してな〜」ってのと一緒やね。困っている人がいたらお互い助け合う。近所の子ども見たったり出産したすぐの人の世話したり、日本の老人の“孤独死”なんて考えられへん」

お店でのアフリカンライブや24時間TVの出演、県・市の国際交流フェスタ参加などを通じてパフォーマンスすることで、まずは「伊賀上野の近所の人から」理解してもらい小さなことから世界を知って欲しいという思いで活動しています。募金活動、支援活動も行っています。

ジエンベというアフリカの太鼓の音は、日本の和太鼓にも通じる「あたたかい何か」を感じます。その「何か」を自分自身で感じてみるのはどうでしょうか?

取材：東

●活動内容:レストランについてのお問い合わせ  
緑ヶ丘中町4403-5 ☎48-5432 KENYA HOUSE

炊き出し



非常食・豚汁  
の試食

ポンプ操作・  
ホース接続  
訓練



煙体験



まっ白で何も  
見えな～い

脱出！



救出 エンジンカッター作業

担架搬送

足を広げて  
腰をおとして



# 東部地域住民自主防災訓練

10月18日(日) 上野東小学校で400人が参加しました。

消火訓練



バケツリレー

ピンを  
抜いて…

火元を  
ねらってー!!

心肺蘇生



気道確保!

「水戸黄門」  
or  
「世界に1つだけの花」  
のリズムで30回



# 貸し出します!

東部地域住民自治協議会では、住民のみ  
なさんの公的な活動にご使用いただきたく、  
以下の備品を貸し出すことにいたしました。

ご利用いただく場合、電話等で確認の上、  
申し込み用紙に記入いただきます。なお、  
個人や企業の営業、宣伝活動には使用でき  
ません。



プロジェクター



スクリーン



ワイヤレスアンプ&マイク



捕獲檻

その他：巻き尺 (50m・5.5m)  
PTテント、ワイドテント 等

## クリスマスプレゼント



## 編集後記

『若者の活字離れが叫ばれている昨今、広報のお  
役を頂いたとは、なんと皮肉なことでしょう。

「母ちゃんって、若者!？」子どもからするとつい突  
っ込みを受けながらも、いざ原稿を書こうとすると、  
文章どころが漢字すら浮はない。

情けなさを感じながら、携帯で漢字を調べていると、  
「母ちゃん若い(〜)」と次男の声。

いつも笑いが絶えず、年齢を感じさせない部会員  
の方々。少々漢字がわからなくても、文章がおがし  
くても老若男女、明るい部員が  
助けてくれる。そんな中で生まれ  
てくる広報誌は、きっとステ  
キなものになるのでしょう。

(増山 育代)

